

Event

市内の催し物情報を発信

イベントスケジュール

19日(土)・21日(土) 食文化館 季節の調理体験

11月は「鯖」をテーマに、鯖の棒寿司、船場汁、根菜とへしこのサラダ、いちじくのくずもちを作ります。

- 時** 10時～13時 **所** 食文化館(川崎三丁目)
- 対** 小学生以上(小学生は保護者同伴)
- 金** 1,000円 **申** 3日前までに要事前申込、先着16人
- 問** 食文化館 ☎ 53・1000

22日(日) 第12回旭座上方落語会

- 時** 開場13時30分～ 開演14時～
- 所** まちの駅旭座(白鬚)
- 内** 落語：桂文之助、月亭遊方、桂三扇、桂治門
三味線：佐々木千華 *チケットはまちの駅限定販売
- 金** 前売券2,000円 当日券2,500円 *全席自由席
- 問** まちの駅 ☎ 52・2000

28日(土) 史跡 後瀬山城跡シンポジウム

- 午前の部 後瀬山城跡探訪 **時** 10時～12時 **所** 集合場所：八幡神社(男山) **金** 無料 **申** 要事前申込、先着20人 ※雨天中止
- 午後の部 講演会 **時** 13時～16時 **所** まちの駅旭座(白鬚) **内** 「若狭武田氏と後瀬山城」講師：外岡慎一郎さん(奈良大学教授) **金** 無料 **申** Zoom配信を希望する場合は要事前申込(24日⑩締切)
- 問** 文化課 ☎ 64・6034 FAX 52・3223
メール rekishi@city.obama.fukui.jp
※ FAX・メールの際は、「氏名・電話番号」を記載してください

28日(土) 小浜男女共同参画のつどい

- 時** 受付14時～ 開始14時30分～16時20分
- 所** 働く婦人の家(大手町)
- 内** 「生徒の可能性を拓く～JETSの奇跡～」講師：五十嵐裕子さん(福井県立福井商業高等学校教諭、チアリーダー部顧問)、JETSのメンバー
- 金** 無料 **申** 要整理券、先着150人
- 問** 働く婦人の家 ☎ 52・7002

29日(日) 第3回小浜市成人大学講座

- 災害時に生き残るために、災害の危険をキャッチする知恵や、災害に備える生活のコツなどを学びます。
- 時** 10時～11時30分 **所** 雲浜公民館(城内二丁目)
- 内** 「みんなで学ぶ防災セミナー～避難時の心得について～」講師：山崎加代子さん(敦賀市立看護大学看護学部看護学科教授)
- 金** 無料 **申** 要事前申込(26日⑩締切)、先着50人程度
- 問** 生涯学習スポーツ課 ☎ 64・6033

29日(日) 小浜市民障がい者スポーツ体験フェスタ

- 日本車いすバスケットボール連盟のU23強化指定選手2名によるトークセッションや競技の実演のほか、参加者が競技用車いすの乗車体験やシュート体験などを行うことができます。
- 時** 受付9時30分～ 開始10時～12時30分
- 所** 市民体育館(後瀬町)
- 内** 講師：古崎倫太郎さん、片岡勇登さん(いずれも一般社団法人日本車いすバスケットボール連盟U23強化指定選手)
- 対** 障がい者スポーツに関心のある人
- 金** 無料 *観覧は自由(事前申し込み不要)
- 申** 体験参加は要事前申込(9日⑩締切)、先着50人(メールで申し込みの際は「住所、氏名、年齢、電話番号」を記載してください)
- 問** 高齢・障がい者元気支援課 ☎ 64・6012
メール genki@city.obama.fukui.jp

「小浜市総合文化祭」開催内容の変更

- 本紙10月号に掲載の内容が一部変更になりました。
- 変更後の開催内容
- 秋季書道展 会場展示は中止(作品審査・表彰のみ実施)
- 小浜市かるた大会 開催中止
- 小浜市いけばな展 開催期間・場所の変更
▶期間 11月16日(日)～12月9日(土)
▶ところ 小浜市役所(大手町)
- 郷土に遺る刀剣展 開催期間・場所の変更
▶とき 11月1日(日) ▶ところ 文化会館(大手町)
- ※詳しくは問い合わせください **問** 文化会館 ☎ 53・9700

凡例

時 = 時間 **所** = 場所 **対** = 対象 **内** = 内容
金 = 料金 **申** = 申込締切、定員など
問 = 問い合わせ先、申し込み先



レストラン棟と宿泊棟からなる複合施設「海のオーベルジュ志積」。レストランは壁一面がガラス張り、海を一望できる。

今月号は
とくがわ たかふみ
徳川 貴文
がお届けします



地域おこし協力隊が、日々の活動や感じたことをレポート!

隊員たちのよもやま日誌

「泊まれるレストラン」の運営のため奮闘中

はじめまして。地域おこし協力隊の徳川です。私は主に、「内外海地区活性化プロジェクト」の拠点として志積に建設された、レストランを併設する宿泊施設の管理・運営を行っています。

着任前に大阪の通販会社で勤務していたときから、地域の暮らしや生業(なまひ)に関心があり、さまざまな地域を訪れる中で、若狭地域にも2年ほど前からたびたび来ていました。

そのときの縁がきっかけでプロジェクトを知り、「地産地消」や「環境への配慮」などのテーマに共感を覚え、ぜひ挑戦したいと思い、隊員募集に応募。7月に着任し、小浜へやって来ました。

8月にはレストランが、10月には2つの宿泊棟がオープンしたばかりで、お店の現場業務から施設全体の管理、運営会社の経営まで、幅広い任務に奮闘する毎日です。初挑戦の飲食・宿泊業界で、まだまだ行き届かない点や課題も多いですが、単に人を呼び込むだけでなく、地域の方々がより豊かに暮らせるような拠点にできるよう、さまざまな人たちと協力して活動に取り組んでいきます。

健康 生活のたびら

「目のメタボ」

加齢黄斑変性症

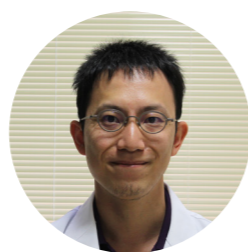
加齢黄斑変性症って?

加齢黄斑変性症は、加齢が原因で目の中心部にある黄斑が傷んでしまう眼疾患です。喫煙歴がある人や肥満の人は発症率が高くなる傾向にあり、「目の生活習慣病」や「目のメタボ」とも呼ばれています。この疾患は男性に多く、50歳以上の約80人に1人が発症していると言われています。

見えているか自己チェック

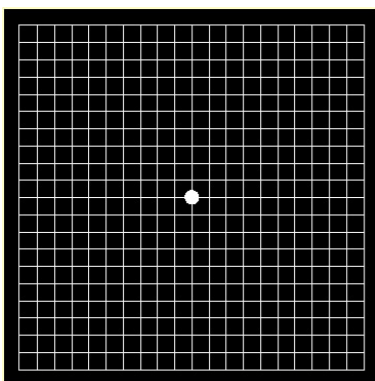
この病気の症状は、視野の「中心がぼやける」「ゆがんで見える」「暗くて見えにくい」などです。心配な人は、「アムスラーチャート(下図)」を使い、簡単な自己チェックを試してみましょう。

まず、片目ずつ手で隠して、図中央の白い点を見つめてください。そして、図全体の見え方に先の症状が出ないか確認します。見え方に異常があった際は眼科の受診をお勧めします。目は片方が病気になるっていても、もう片方が補って異常を感じ



杉田玄白記念 公立小浜病院
■問い合わせ ☎ 52・0990

眼科
柿本 宙志 医師



▲この図を使って目の見え方が確認できる

今富・国富地区にある2千を超え
る民家や事業所。その一帯を1人で
巡回して住民の安全を守り、防犯を
呼びかけているのが松村さんです。
松村さんは若狭町出身。大学2年
生のときに、『将来は地元に戻り、地
元の役に立ちたい』と考え、警察官
の道へ。県外の大学を卒業後すぐに
福井県警察に採用され、他市町での
勤務を経て、平成31年3月に今富駐
在所に着任しました。

たことは責任を持ち、周りの方の力
を借りながら解決していこうとがんば
っています」と語り、「以前、住民
の方からの情報提供がきっかけで泥
棒を捕まえることができました。あ
りがたかったです」と振り返ります。
日頃から住民と交流があり、「1歳
の息子と散歩をしていると、近所
の方に声を掛けられます」と話す松村
さん。直近の目標として、「住民の方
と触れ合い、今富・国富地区のこと
は何でもわかるようになりたいです」
と意気込みを教えてくださいました。

地元『福井』の役に立ちたい



勤務先 福井県小浜警察署 今富駐在所
まつむら あきひろ
松村 顕広 さん
(28歳・和久里)

部のよい雰囲気をつくりたい

部活動の始まりに、部員一同が顔
を合わせる小浜中学校芸術部。絵や
曲など「ひとつのものに責任感を持っ
て取り組む」ことを目標にして、部
員ら20人は美術とバイオリンの2
コースに分かれ、絵画や音楽などの
表現を磨いています。

制作の様子を教えてくださいました。
新体制となって2ヶ月余り。「部の
よい雰囲気をつくりたい」という思
いを持ち部長になった森下さんにつ
いて、顧問の高須先生は、「部の改善
するところを話し合い、部員の意見
をまとめてくれる」と評価します。
部の現状について、「学年に関係な
く作品制作のアドバイスをし合っ
ている」と話す森下さん。今後に向け
て後輩には、「自分で工夫して課題を
解決する方法も見つけてみてほしい」
と成長に思いを寄せていました。



芸術部 部長
もりした このは
森下 心花 さん
(小浜中学校2年生)

「みんなの別邸」ふるさとの誇りに

松本さんは、若狭塗箸の企画・製造
などを手がけるマツ勘(北塩屋)の4
代目。かつて陸上競技で五輪を目指し
たスポーツマンで、現在は専務として
同社の先頭を切り活躍しています。
「若狭塗箸の業界でいち早く商業デ
ザインを取り入れた現社長のよう
に、物事を柔軟に考え、新しいことに挑
戦する心を大切にしています」
同社は今年6月、江戸時代の北前船
主「古河屋」が藩主を迎えるため整備
した別邸「護松園」の所有権を取得。
北前船や若狭塗の歴史を表現する

ギャラリーや、交流の場となるカフェ
などを備え、市民や観光客が気軽に
集える「みんなの別邸」を目指して
改修を始めました。
「護松園は、港町として発展してき
た小浜を代表する建物で、地域の文化
や伝統産業を次代につなぐ最適な場
所」と言う松本さん。「私が伝統ある
若狭塗箸に誇りを感じ、未来に残した
いと思ったように、小浜の将来を担う
子どもたちが、ふるさとに誇りを持つ
きっかけになればうれしいですね」と
思いを語ってくれました。



株式会社マツ勘 代表取締役専務
まつもと たかのり
松本 啓典 さん
(34歳・下竹原)

仲間と声かけ練習に励む

部員たちが声を掛け合い、練習に汗
を流す若狭東高校ウエイトリフティン
グ部。キャプテンの河原くんは、中学
校の柔道部時代、ウエイトリフティン
グ顧問の安達先生に声を掛けられて同
校に入学し、競技を始めました。
「はじめは柔道やレスリングを勧め
られたけど、高校では違う競技に挑戦
したいと、それまで全く知らなかった
ウエイトリフティングを選びました」
現在の部員は、1・2年生合わせて
4人と少人数ながら、「部のレベルは
全体的に高い」と胸を張る河原くん。

「国体選手の安達先生や、全国トップ
レベルの先輩方が指導してくださる
おかげ。本当に恵まれている」と、
周囲への感謝を語ります。
競技の醍醐味を「練習で努力したこ
とで、結果にしっかりと反映されるこ
ろ」と話す河原くん。昨冬の県大会で
は、その言葉通りに練習の成果を発揮
し、見事、67kg級で優勝を飾りました。
今後の意気込みを尋ねると、「来
年のインターハイは福井県で開催予
定。地元選手として、必ず出場できる
ようにしたい」と答えてくれました。



ウエイトリフティング部 キャプテン
かわら けいた
河原 圭汰 くん
(若狭東高校2年生)